

科目名 (科目番号)	医用安全学 (101721)	教員名 稲田 政則	学科等	臨床検査	選択	履修年次	1
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			オフィスアワー			前期水5 後期水2	B320研究室
授業概要	医療事故はどのような特質があるのか、どうすれば医療事故の予防ができるのか、起きてしまった事故をどのように対処すべきなのか等について過去の事例分析をベースに学び、実践の場で活かせるように有効な対処法を修得する。リスクとは何か、リスクの予防策にはどのようなものがあるのかといった基本的知識を学習し、医療界での事例分析を通じ、医療分野でのリスクマネジメント情報収集・分析・対策立案の実践的応用力を身につける。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	医療事故の現実	到達目標:医療事故の現状および特徴を理解する。 学習内容:社会問題となった医療事故の事例を取り上げる。列車事故や航空機事故との比較から医療システム特有の背景を学ぶ。				
	2	安全人間工学	到達目標:安全人間工学の重要性を理解する。 学習内容:ヒトは間違い、機械は壊れるものである。間違い難い環境の整備や間違えても致命的な結末に至らない工夫の必要性、人間の認知特性に合致した機械の設計やトラブルに気づきやすいシステム構築の必要性を学ぶ。				
	3	リスクマネジメント	到達目標:医療施設におけるリスクマネジメントの現状を理解する。 学習内容:医療現場では、事故にまでは至らなかったものの危険のあったヒヤリハットの事例収集が行われている。医療安全対策の中心的な役割を果たすインシデント報告体制を学ぶ。				
	4	FMEA・RCA	到達目標:事故の原因究明、未然予防に役立つ各種ツールに対して理解を深める。 学習内容:他の分野で使われてきた品質管理ツールが医療界でも応用されつつある。事故の未然防止のためのFMEA(故障モード影響解析)、事故の原因究明のためのRCA(根本原因解析)について学修する。				
	5	発明的問題解決手法	到達目標:発想は偶然生まれるものではなく、システム的に行えることを理解する。 学習内容:「不注意が原因ならば今後は一層注意する」といったコインの裏返し的な対策はほとんど有効性がない。ブレインストーミングやTRIZ(発明的問題解決手法)を駆使して、あらゆる角度から対策を考える必要性を学ぶ。				
	6	グループワーク(1)	到達目標:協調してグループワークの方向性を決める。(受講者数によっては個人) 学習内容:医用安全に関連するテーマを設定した上で、関連するテーマでグループをつくり、調査方針を検討する。(受講者数によっては個人で検討)				
	7	グループワーク(2)	到達目標:発表会に向けて、必要となる材料を収集し、プレゼンテーション用資料としてまとめる。 学習内容:グループで決定した方針に沿って、文献調査やインタビュー調査を実施する。(受講者数によっては個人で調査)				
	8	グループワーク(3)	到達目標:グループワークで調査したことを各自が発表し、質疑応答によって議論を深める。 学習内容:グループ毎にまとめた調査結果を互い発表する。(受講者数によっては個人で発表)				
成績評価の方法・基準	定期試験 (100%)						
教科書	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ	河野 龍太郎			日本規格協会		
参考図書	医療のTQM七つ道具	飯田 修平 他			日本規格協会		
教員からのメッセージ	医療事故は、患者さんにとっても医療側にとってもダメージの大きな社会問題となります。人間の介在の多い医療現場において、いかにしてリスクを下げるができるのか、グループワーク等を通してしっかりと身につけてください。						